

江南市まちづくり会議（全体会議） 議事要旨

| | |
|-----|--|
| 会議名 | 平成29年度 江南市まちづくり会議（全体会議） |
| 日時 | 平成29年12月22日（金） 午後1時30分～午後3時10分 |
| 場所 | 防災センター 2階 防災セミナー室 |
| 出席者 | 市民委員 中田 實、武長 脩行、岩井 喜美子、林本 剛幸、松尾 昌之、今井 敦六、 柴田 広美、森崎 芳子、長尾 恵利世、小沢 捨雄、福田 直樹 |
| | 市職員 山田 順一、倉知 江理子、野田 憲一、稲田 剛、坪内 俊宣 |
| 傍聴者 | なし |
| 議題 | 1. 後期計画期間の成果と課題について 2. その他 |
| 資料 | 資料1 江南市まちづくり会議委員名簿（平成29年度）【全体会議】 資料2 後期計画期間の成果と課題 資料3-1 まちづくり評価【Ⅰ 生活環境、産業分野】 資料3-2 まちづくり評価【Ⅱ 健康、福祉分野】 資料3-3 まちづくり評価【Ⅲ 都市生活基盤分野】 資料3-4 まちづくり評価【Ⅳ 教育分野】 資料3-5 まちづくり評価【Ⅴ 経営、企画分野】 |

◆ 会議結果 ◆

- ・会議の開催にあたり、総務部長よりあいさつがありました。

1. 後期計画期間の成果と課題について

- ・後期計画期間全体の成果と課題について、資料2に基づき、事務局より報告がありました。
- ・分科会において審議された成果と課題について、各分科会の会長より報告がありました。
- ・報告後行われた意見交換した内容については以下のとおりです。

【意見交換の内容】

- ・少子高齢社会では様々なニーズが多岐にわたって増加する一方、サービスの担い手が減少している状況である。これからの福祉分野を支える事業を推進させるためには、新たな担い手の確保が重要である。その手段の一つとして、児童や生徒に福祉への関心を持ってもらうことが必要ではないかとの意見がありました。
- ・大規模地震等が起きた時に、病気や高齢者の人も地域の一員であることから、避難を民生・児童委員だけに任せるのではなく、区・町内会としてどのような行動をとれば良いか考えていかないと、災害時に大きな問題となるのではないかとの意見がありました。
- ・地域のコミュニティがしっかりしている地域では、お互いに見守りや助け合いが行われており、その地域に空き家が出た時には、誰かが購入して、その一部を地域の人に開放し活用している例もある。このような方法を参考に、市が政策的なサポートしながら高齢者の居場所づくりと空き家対策をつなげることが出来るのではないかとの意見がありました。
- ・空き家対策について、建物を壊すと固定資産税が高くなることから、空き家が減っていかないという問題があり、都市生活基盤分野だけでは解決することが難しくなっているとの意見がありました。
- ・行政は区・町内会に対してどのような支援を行っているのかとの質問があり、区・町内会に対して協力

金を交付しているとの説明がありました。

- ・転入者に対して区・町内会への加入案内を行っているのかとの質問があり、転入手続きを行う中で区・町内会への加入を促すパンフレット（暮らしの便利帳）を配付している。また、区長・町総代と面会を希望する方には、区長・町総代の連絡先を教えているとの説明がありました。
- ・マンションでは、管理組合が区・町内会の役割を担う場合もあるが、居住者間ではどの階に誰が住んでいるか分からない状態である。このように従来の区・町内会に加入しないという問題だけでなく新たな問題が広がってきているとの意見がありました。
- ・区・町内会の間で、仕事を分担し、皆で仕事を担うようなシステムを作り、区長・町総代等役員の負担を減らす必要があるのではないかと意見がありました。
- ・市は、住民票上では同居者がいるが、実際は一人で暮らしている高齢者を把握できているのかとの質問があり、近所の人からの連絡や自ら地域包括支援センターに相談に来る人もいるが、全ての高齢者の状況を把握することはできていないとの説明がありました。
- ・近所だけではなく、様々な生涯学習教室やサークル、サロン等をつながりを持てる場が広がっている。つながりの輪を広げていくためにもお互いに声を掛け合っていくことが重要ではないかと意見がありました。
- ・60代後半から70歳くらいまで働き続ける人が増え、働くことを辞めた後にボランティア活動に参加しようとしてもその時には参加する体力が無くなっている。これからは健康寿命等も含めて高齢者問題に対応していかなければならない。その一方で、子どもたちへの福祉に関する教育の充実や、若い人たちが福祉活動に取り組む仕組みを考える必要があるとの意見がありました。
- ・高齢者の問題に対する取り組み方は地域によって格差が大きい。取り組みを活発に行っている地域では住んでいる地域の問題に関心が高く、放置しておくことのできない意欲のある人がリーダーとなり活動している。今後は、このような人材を発見し尽力してもらうことで地域の格差を縮めることが出来るのではないかと意見がありました。

2. その他

- ・平成30年度のまちづくり会議のスケジュールについて、事務局より説明がありました。